



和をもって

ゆとり世代の時代

第21号

発行
成相山成相寺

京都府宮津市字成相寺339
TEL0772-27-0018
<http://www.nariaiji.jp/>

今年は何かしら急かされて冬がいきなり終わり、春も駆け足で、もう気がついてたら初夏の眩しい日差しです。皆様方にはいかがお過ごしでしょうか。お伺い申し上げます。

今年三月から身辺慌ただしく、尚のこと三月に去られたのかもしれないが、四月に長男の龍眞が福知山の威光寺に晋山いたしました。このお寺は石坪家が



代々住職を勤めておりまして私が成相寺と兼務しておりましたがこの度長男に代を譲りました。私も生まれ育った寺で、長男も威光寺で生まれました。二十五才で初めて住職と呼ばれてから今日まで無事勤められて、感慨もひとしおです。

四月十五日に晋山式を執り行いましたのですが、当の本人も緊張してはおりましたが挨拶で「……というわけで、頑張ります。」と語尾を伸ばして挨拶を締めくくり、爽やかに笑っておりました。家内も私も思わず顔を見合わせてしまいました。大きな拍手を頂きほっとしましたが後で友人に聞くと「いや、よかったよ。変にかしこまつてるより大きな人格が見えたよ。ゆとり世代の代表だね。」と。

そうです。長男はまさにゆとり世代の申し子というか学校は土日が休みで当たり前の世代です。「褒めて育てよ」と言われ続けてきた世代です。正義感が強いが人との争いは好まない。自立心は旺盛なのに何故か人に頼りたがる。携帯電話がないと生きていけない。そんな子供達がいつの間にか大人になったんですね。しかしながら本人たちはいい迷惑であ

ろうなと思います。勝手にゆとり世代と呼ばれ、一括りにされ、あやっぱりと言われ。いつの時代も世代間の行き違いは在るものですね。

晋山式と一緒にご本尊ご開帳も致しましたのですが、ニュースのお陰で田舎の山寺に大勢の方がお越し下さいました。高槻からお越しの御夫婦とお話ししておりましたら「うちのお寺も若い住職さんに代わって、それが本堂でバンドのライブをされるようになって、檀家がすっかり遠のいてしまいました」と苦笑いして帰って行かれました。

最近ではテレビでもお寺や仏教についての番組が多く、若いゆとり世代の住職さん達が出演しておられて、よくそんな難しいことまで勉強してるなど、感心しています。一方ではお寺でバンドのライブやカフェバーを開いてご年配の檀家様が顔をしかめておられる話も聞いてはおりました。

さあ、長男はどんな住職を目指すのでしょうか。

「親から、大事にしなさい。と言われました。ですから私は、仏様を一番に大事に致します。そしてら仏様もお寺や檀家様や家族を大事にして下さるようになるのだと思っています。まあ、とにかく頑張りまーす。」

これが長男の挨拶でした。親馬鹿ですが今はこれでいいと思います。そのうち、色んな問題に直面して悩み育っていくのだと思います。

『家庭に戒めとして二語ある。それは『ただ思いやりが深くさえあれば、家族の心はおだやかであり、ただ儉約さえすれば費用は十分に足りる』という二語である』

これは「菜根譚」の一節です。私も老僧からよく聞かされました。長男にこれを送りたいと思います。

ゆとり世代と言われる多くの若者達が世に出て活躍する時代が来ているのです。十人十色「みんな違ってみんな良い」ですね。あれを思い出して下さい。これから色んな場面で上手くいかなくなったり、悩んだりするでしょう。それでも自分を信じて精一杯頑張ってください。少しばかり身軽になった私は、さて次は何をしようかと、考え中です。

今年も暑い夏になりそうです。皆様方お体くれぐれもご自愛下さいませ。

南無観世音菩薩
山主 弘眞
合掌





山内順礼 番外編

国宝 雪舟 天橋立図 (京都国立博物館蔵)

いつの時代かは解っておりませんが、成相寺より放出されたと言われている、このあまりにも有名な水墨画は雪舟という人物の謎めいた来歴とともに、多くの研究者の方に説き明かされてきました。

今回、私が久しぶりに興味を持って伺ったのが、学習院大学の島尾教授の「雪舟・隠密説」です。先生も昔から何度となく橋立にお越し頂いて講演やテレビの撮影とご活躍されておりますが、この隠密説は一つの小説が書けそうな位のインパクトがあり、フィクションでは有りますが、とても楽しい講演でした。

周防国の守護大名大内氏の庇護を受けたとされる雪舟ですが、八十才を超えた頃の作とされる橋立図は、大内氏が畿内への足がかりとして天橋立を重要起点と捉えて、その攻略図であったのでは、と言うのが先生の説です。成相寺へ登っていくつかのルートが書き込まれており、重要な邸宅が事細かに描かれ、攻め入る際に格好の案内図であると。これはこれで想像を逞しくし、又じっくりと橋立図を眺めながら、国盗りの物語を思い描く楽しい時間にもなります。

京都博物館に所蔵されているので、なかなか実物は拝見できませんが、成相寺にあります大内の模写の写真を添付いたします。どうぞゆっくりご覧下さいませ。大内氏は実際には攻めてきませんでした。何が起ったのでしょうか。なんんだかわくわくする説ですね。



古松の会・お写経の会の会員様へお連絡

長年写経の会の世話を担当致しておりました職員の和田が昨年末で退職致しました。

本年より、担当職員が朝倉と井上に変わりました。和田からの引き継ぎが上手くなされておらずご迷惑をおかけすることも御座いますが、今まで同様に皆様からのお写経を観音様に奉納させて頂きまます。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

又、この連絡をお読み頂いて、お写経にご興味のおありの方は、どうぞお申し付けくださいませ。成相寺奉納専用の用紙をお送り致します。「般若心経」が五巻で一セットと「観音経普門品偈」が三巻で一セットのものと二種類御座います。跡なで式のどなたでも書いて頂ける写経用紙です。「一日一行、毎朝のお勤めのつもりで書いております」ですとか「夜の眠れないときに心を鎮めてくれるので書いております」とかのお便りを頂きます。皆様少しづつ書いて、送って下さっております。どうぞ、この機会にお写経を始めるにはいかがでしょうか。お誘い申し上げます。

